

[経営部門]

1. 集落営農の経営分析支援の視覚化ツール

[要約]

財務諸表等を入力することで集落営農組織の経営状況を視覚化するツールを作成した。本ツールを用いることで、組織の改善点を構成員に分かりやすく説明できる。また、関係機関による組織の運営支援に役立つ。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

本県の集落営農を維持発展させるためには、集落ビジョンを共有することが重要であるが、そのためには構成員全員が集落や組織の状況を把握する必要がある。そこで、構成員に経営状況を分かりやすく説明するためのツールを開発し、集落営農の推進に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 本ツールはエクセルマクロを用いたもので、集落営農の人員構成、経営面積、貸借対照表、損益計算書及び固定資産の状況、当該年の部門別製造原価等財務諸表の値をそれぞれ入力すると、経営面積やオペレーター数の推移、財務状況の推移及び部門別の収支状況等の経営状況を視覚化して出力する（図1）。
2. 財務状況を視覚化するため、財務の安全性を稲の「茎と根」、収益性を「穂」、生産性を「葉」、地域還元性を「土壌」に例え、優良（A）、標準的（B）、要改善（C）の3段階で評価して表示する。また、過去5年間のデータ入力から財務状況の年次推移が比較できる（図1）。
3. 財務分析指標は、安全性4項目（流動比率、当座比率、固定長期適合率、自己資本比率）、収益性4項目（総資本経常利益率、売上高経常利益率、売上高営業利益率、総資本回転率）、生産性3項目（構成員1人当たり売上高、経営面積10a当たり売上高、付加価値率）、地域還元性3項目（構成員1人当たり還元額、経営面積10a当たり還元額、構成員還元率）の14項目を用いている（図1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本ツールは、各農業普及指導センターに配布する。
2. 上記以外に内部留保と施設・機械の投資計画を比較、表示する機能等がある。

[具体的データ]

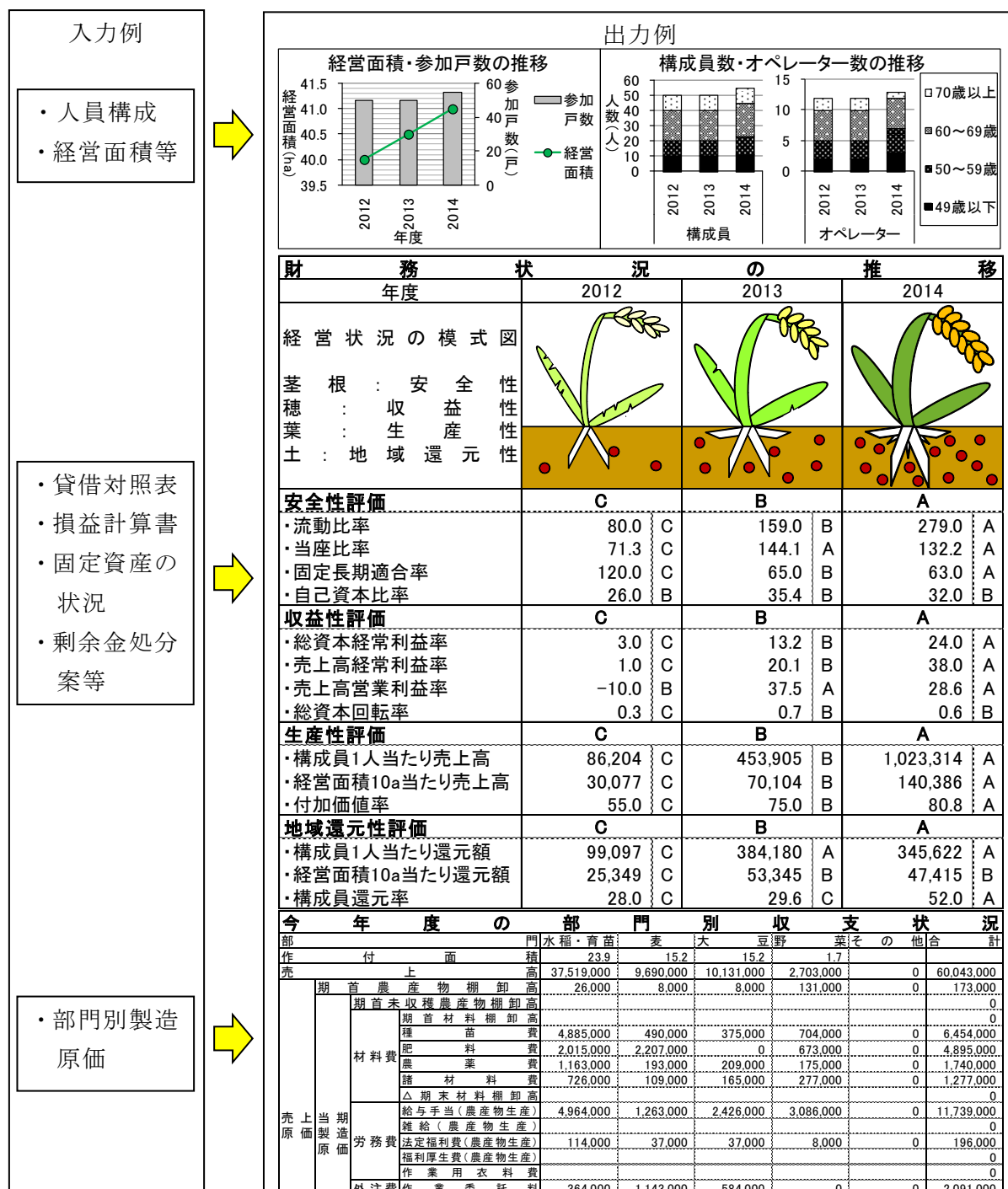


図 1 入出力例

[その他]

研究課題名：集落営農の維持・発展に向けた支援方策の解明

予算区分：県単

研究期間：2011～2013年度

研究担当者：井上智博、河田員宏、橋新耕三

関連情報等： 1) 平成22年度試験研究主要成果、61-62

2) 平成23年度試験研究主要成果、63-64

3) 平成25年度試験研究主要成果、71-72